

## 第一部国際協力分科会（第25期・第1回）

### 議事要旨

日時：2021年2月17日（金）10：00～11：30

会場：オンライン形式で開催

出席：日比谷（議長）、栗田、白波瀬、窪田、河野、竹中、仲、町村

【以上、敬称略】

### 議題

#### （1）役員を選出について

- ・本分科会の役員として議長より提案があり、委員長日比谷会員の下に副委員長町村連携会員、幹事竹中連携会員を置くことが承認された。

#### （2）25期の活動方針について

- ・日本学術会議幹事会「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて（中間報告）」（令和2年12月16日）に基づき、「I. 日本学術会議のより良い役割発揮に向けた活動の点検と改革案について」の「4 国際活動の強化」に記載された今期の活動方針が確認された。
- ・第24期国際協力分科会委員長町村連携会員より、第24期第7回議事要旨に基づき、以下の引継ぎ事項の説明がなされた。

##### ① AASSREC (Association of Asian Social Science Research

Councils: アジア社会科学研究協議会連盟) に日本学術会議は加入しており、2019年大会（ベトナム）に第24期本分科会委員中野聡会員が出席した。次回の第24回大会は2021年（月未定）にオーストラリア・キャンベラで開催予定である。

##### ② IFSSO (International Federation of Social Science

Organizations: 国際社会科学団体連盟) に日本学術会議は加入しており、第24期本分科会委員上杉委員が同団体副会長を務める。2021年総会の詳細は未定だが、開催の予定である。

##### ③ AASSRECとの連携事業として、第24期国際協力分科会として公開シンポジウム「公共空間から考えるアジア」（2020年3月8日）を企画したが、COVID-19感染拡大のため、中止の可能性を含めて延期された。

##### ④ 国際交流の課題につき、第24期本分科会より以下の諸点に関する申し送りがあった。(a)自然科学分野が中心的な ISC (International Science Council: 国際学術会議) が2018年に人文科学分野の国際学術団体である ISSC (International Social Science Council: 国際社

会科学協議会)と統合したが、これを機に学際的な国際交流を発展させる必要がある。(b)国際交流における地域間バランスの配慮が必要である。(c)アジアにおける国際交流を強化する必要がある。(d)国際交流に継続的に携わる研究者を確保すると同時に、本分科会も「属人主義」ではなく「組織」としての整備を行う必要がある。

(e)COVID-19感染拡大に伴う会議のオンライン化によって、国際交流を活発化させ、コンテンツを広く発信できる可能性がある。(f)『学術の動向』誌上での企画構想・英語での発信等を強化していくべきである。

- ・第25期国際協力分科会の活動方針について、以下の諸点について、出席者により活発な質問・議論・情報共有がなされた。(a)日本学術会議および第1部会としての包括的な国際的活動を考慮し実現する必要がある。(b)研究・教育活動として、自然科学系と人文・社会科学系との積極的な連携が重要である。(c)国際社会における日本の専門家としての活動が重要である。(d)科学の重要性や学術研究の価値を社会的に位置づけるための情報発信や対話が必要である。(e)第25期日本学術会議として、日比谷委員長も加わる陣容で「コロナ対応ワーキング・グループ」が設置され、現在の最重要課題に学際的に取り組む企画を進めている。(f)感染症のパンデミック・気候変動・ジェンダー的平等や人権保障などの今日的課題について、さらなる学際的協力が重要である。(g)AASSREC・IFSSO・ISCに日本学術会議や第一部会のメンバーが積極的に参加し、国際的役割を果たすことが期待される。(h)日本の学術研究をグローバルに発信するさらなる努力が必要である。

### (3) 令和3年度(2021年度)代表派遣(AASSREC, IFSSO)

- ・日比谷委員長より、2021年1月学術会議事務局にAASSREC(オーストラリア・キャンベラ、2021年、2名派遣)とIFSSO(開催地未定、2021年、1名派遣)について、代表派遣の申請を行ったという報告があり、承認された。

### (4) 委員追加の検討について

- ・日比谷委員長、町村副委員長より、中野聡連携会員(一橋大学)と上杉富之連携会員(成城大学)の2名を本分科会の追加の委員として迎えたいという提案があり、全会一致で承認された。第24期本分科会で委員を務めた両氏は、AASSREC、IFSSOの活動に貢献され、第25期にも引き続き活動していただく予定である。

(5) その他

- ・分科会開催は、当面はオンライン形式で実施する予定である。

以上